

40. 高圧酸素療法における脳梗塞及び慢性関節リウマチの治療効果について

龍村俊樹*¹⁾ 古野利夫*¹⁾ 辻本 優*²⁾
 小山信二*²⁾ 東出慎二*²⁾ 美濃一博*²⁾
 栗林秀樹*³⁾ 平林多津司*³⁾ 新谷卓弘*³⁾
 萬葉泰久*⁴⁾ 伊藤祐輔*¹⁾ 山本恵一*²⁾

* ¹⁾	富山医科薬科大学救急部
* ²⁾	同 第1外科
* ³⁾	同 和漢診療部
* ⁴⁾	同 放射線科

本大学救急部は昨年4月発足以来、現在までに計130名の患者、延べにして1497回の高圧酸素療法をおこなってきた。その内訳をみると、脳梗塞45例、脊髄疾患17例、イレウス12例、下肢動脈閉塞症17例、関節リウマチ9例、多発性脊髄硬化症8例、突発性難聴5例、その他17例であった。

今回は特に脳梗塞症にみられる片麻痺、及び関節リウマチをとりあげて検討してみた。前者45例のうち32例において、十分な資料があり、これらを対象にした。後者は9例であった。32例中有効と認められたものは16例で、有効率が50%で、うち著効と認められたのは6例で、有効は7例、やや有効は3例であった。有効と認められたものが、いずれも治療回数は5回以上で、しかも全例が急性期に本療法をおこなったことは、注目に値するものであろう。一方、リウマチの9例では、いずれも関節の変形を伴う症例で、関節痛からまったく歩行不可能な症例までで、9例のうち6例66.7%の症例に治療効果が得られている。うち有効が3例で、著効と認められた2例が、歩行可能な状態まで回復を認められた。治療効果の機序についてはなお不明で、今後更に各方面より検討したい課題である。

41. 高気圧酸素療法により嗅覚減退の改善を認めた2症例

若松伸二 菊地康久 永山佳央
 高木康樹 後藤 厚 滝沢秀樹
 西川貴之 大隅 彰
 (東京医科大学霞ヶ浦病院内科)

2症例はいずれも感冒を誘因としてそのウィールスによる末梢嗅神経障害を来したためと考えられる嗅覚の著しい減退を認められ、これに対し高気圧酸素療法を試みたところ、その改善が認められたので報告する。

症例1は嗅覚減退後、VB₁₂、非ステロイド性消炎剤、ATPの併用療法を行ったが全く奏効せず、約1ヶ月間に亘る嗅覚減退が持続した。

症例2は糖尿病と高脂血症を基礎疾患として通院し、内服抗糖尿病剤により経過良好で、末梢神経炎の合併もない。偶々感冒に罹る後著しい嗅覚減退を惹起し、VB₁₂、チスタミン、およびリンデロン点鼻を行ったが、改善は認められず約1ヶ月間不変のまま経過した。

私共はこの2症例に対し改め耳鼻科的な一般検査の他、頭部CT、感冒の主要ウィールス抗体、嗅力損失を定量的に検索する目的でOlfactogramを測定すると共に、種々の揮発性物質、ガス、煙、香料、食品、嗜好物、腐敗臭などにつき自覚的な嗅覚の程度を調査した上、高気圧酸素療法を開始した。

症例1は8回、症例2は6回実施し、その直後及び前後の改善度について観察した。2症例共完全な正常化には至らなかったが、Olfactogramおよび前述の種々の物質に対し明らかに嗅覚の改善が認められた。改善の程度は物質により異なり、またOHP療法直後の一過性の著しい改善も症例1において認められた。

多少の自然寛解の影響も否定しえないがかなりの改善が認められたことから高気圧酸素療法の新しい適応の一つと考えられる。

嗅覚減退に対するOHP療法の報告は我々の調査の範囲では認められず、また作用機序も明らかでないことから、今後症例を重ねて追試することを期待している。